

[資 料]

健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動に ついて（平成29年度）

地域連携推進委員会

坂本 宏史 永井 正則 小沢 健一 篠原 亮次
成田 崇矢 窪川 理英 瀧口 綾 中村 圭一

Collaborative activities of Health Science University with the
town of Fujikawaguchiko in 2017

SAKAMOTO Hiroshi, NAGAI Masanori, OZAWA Ken-ichi,
SHINOHARA Ryoji, NARITA Takaya, KUBOKAWA Rie,
TAKIGUCHI Aya, NAKAMURA Kei-ichi

抄 録

本年度（平成29年度）に健康科学大学（本学）地域連携推進委員会が「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下包括連携協定）」に関連して行った活動を中心に報告した。「包括連携協定」の目的の一つである「知的財産の共有」に関連して、本学教員が地域住民に対して公開講座を開く一方、富士河口湖町（以下、町）役場の職員が講師として本学学生に対して地域行政の基本や課題について紹介する授業、「地域連携の理論と実際」を行った。公開講座は、「健康にくらす」をテーマに、全3回開催された。「地域連携の理論と実際」には、80名の履修登録があった。本学ボランティアセンターに登録している学生は、4学科合わせて245名であり、町をはじめ、地域の要請に応じて活動した。富士北麓地域で富士山噴火を想定した広域の避難訓練や、毎年恒例となっている町内の清掃活動「ウォーク・クリーニング隊」などに参加した。

キーワード：地域連携

包括的連携協定

ボランティアセンター

知的財産の共有

はじめに

ここでは、平成29年度に健康科学大学（以下、本学）地域連携推進委員会が関わった活動のうち、富士河口湖町（以下、町）との連携事業を中心に報告する。また、「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下包括連携協定）」の目的に基づいて、各事業の到達度等を総括した。

1) 地域連携推進委員会総会

5回目となる「富士河口湖町・健康科学大学 地域連携推進委員会総会」が6月28日に富士河口湖町役場1階研修室において開催された。町からは渡辺喜久男 町長をはじめ連携事業に関わる各部署の代表が12名、本学からは荒木 力学長をはじめ8名が出席した。（図1 a, b）。前述の「包括連携協定」に基づいて、平成28年度に行われた連携活動の報告や、平成29年度の活動予定が確認された。また、町からラグビーワールドカップと2020年の東京オリンピックに向けて海外チームの誘致活動、町と本学が締結した防災協定に基づく防災訓練への協力依頼があった。本学からも通学路の整備について要望が出された。



図 1a, b 地域連携推進委員会総会

2) 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本事業は、前述した本学と富士河口湖町の「包括連携協定」を結ぶきっかけとなったものであり、平成29年度（本年度）で9年目を迎える。本年度は、「健康にくらす」を共通のテーマとして全3回の講座を開催した。表1に、各回の概要をまとめた。

第1回は、本学河口湖キャンパスの講義室で、日本人の死因順位で3位となった肺炎について、健康科学部の金教授により予防体操の実践方法も交えて行われた（図1 c, d）。第2回は、本学都留キャンパスで看護学部の学園祭時に、「健康まつりコーナー」の一つの企画として行われた。山崎看護学部長が、健康的な食生活について分かりやすく解説した（図1 e, f）。第3回は、富士河口湖町の「コミュニティフェスタ」の企画の

表1 H29 地域連携講座（公開講座） 日程

回	講座名	講師	日時	場所
1	簡単な運動で誤嚥性肺炎を予防し、命を守りましょう！	理学療法学科教授 金 信敬	10/8(日) 10:30~12:00	健康科学大学 河口湖キャンパス
2	一生元気に食べましょう～健康な食生活を送るために～	看護学部学部長 山崎 洋子	10/14(土) 11:00~12:30	健康科学大学 都留キャンパス
3	高血圧を運動で予防しよう！ ～高血圧を予防する運動のコツとは～	理学療法学科講師 高木 大輔	11/19日(日) 13:00~14:30	富士河口湖町 役場1階コンベンションホール



図 1c, d 第1回 河口湖キャンパスでの地域連携講座



図 1e, f 第2回 都留キャンパスでの地域連携講座

一つとして開催された。理学療法士でもある健康科学部の高木講師により高血圧について、またその予防法について、高血圧を予防する体操も交えて解説された。

3) 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」

本講座では、本学に地域行政の専門家である町の職員を講師として招き、「行政全般」、「福祉」、「文化」、「健康増進」などにかかわる町の取り組みや課題を紹介してもらっている。前述の「包括連携協定」が結ばれたことによって開講される、大変特色のある講座である。本年度は、計4回の本学における講義(図2a, b)と町主催の清掃活動への参加(図3a-c)を通して、興味をもった項目や課題について、学生がグループ単位で町役場職員や担当教員の指導を受けながら調査・研究を行い、最終的に研究発表会を行った(図2c, d)。本年度は、80名の履修があった。学生による授業評価では、高い評価を得た。



図 2a, b 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」の様子
岡村 特別講師、杉本 特別講師 (いずれも富士河口湖町役場職員) による講義



図 2c, d 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」の様子
本学学生による課題研究発表会

4) 学生のボランティア活動

平成23年に全学的なボランティアセンター（センター）が開設されてから、地域連携推進委員会がその運営に関わってきた。センター（現在は学生サポートセンターの中に併設されている）では、専任職員がボランティア情報の提供、ボランティアに関する相談やコーディネートを行っている。またセンターに登録する学生に、ボランティアに関する情報をメール配信している。さらにセンターでは、ボランティアの依頼元を選別したり、傷害保険を紹介したり、学生に不利益がないよう努めている。

本年度10月1日現在、245名の学生（理学療法学科：85名 作業療法学科：107名 福祉心理学科：53名 看護学部：6名）が登録されている。表2に本年度（9月30日現在）の富士河口湖町に関わる学生のボランティア参加状況を示した。

「包括連携協定」が締結されて以来、本学学生と町役場職員、町民有志「まちづくりワークショップ」を主体として毎年「ウォーク・クリーニング隊」として河口湖畔の清掃活動が行われてきた。本年度も、5月21日（日）に、町主催の「富士河口湖町1万人の清掃活動」に合わせて行われた。5月21日の活動は前述の「地域連携の理論と実際」受講者77名が参加した（図3 a-c）。

表2 平成29年度月別ボランティア参加者
（9月30日現在、富士河口湖町関係のみを抜粋）

月	人数
4月	0
5月	8
6月	25
7月	13
8月	0
9月	2
計	48



図3 学生による町内清掃活動の様子

3a, b, c 5月「富士河口湖町1万人の清掃活動」へ参加

まとめ

富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本年度、第1回は河口湖キャンパス、第2回は都留キャンパス、第3回は町役場と、本学の地域基盤である3か所で開催された。

本学の専門領域でもある「健康科学」に因んで、「健康にくらす」を大きなテーマとして、講師を本学教員から広く募り、応募した講座担当教員が、それぞれの専門性に応じて細かいテーマや内容を企画した。

また初めての試みとして、大学コンソーシアムやまなしの協力で富士北麓地域のコミュニティ紙に公開講座の広告を掲載した。

複数箇所での開催と講座への参加を広く呼び掛けたことが奏功したためか、昨年に比べて多くの聴講者の参加を得た。地元地域に向けて、「健康」に関連する知的情報発信に貢献できたと考えている。

地域連携の理論と実際

本講座は、平成23年に教育課程上の福祉心理学科の「専門基礎科目」として開講した。受講対象が制限されていたため開講当初は、受講者が数名しかいないこともあった。

地域行政について、専門家から現場の話を聞くことができる大変貴重な機会であるため、平成25年度からは本学の教育課程上の「総合基礎科目」として、本学のすべての学生が受講しやすくなった。本年度も80名が履修し学生に人気の講座となっている。また、講義期間の最後に受講学生が行う「授業評価アンケート」でも高い評価を得た。

今後も時間割等を本学「教務委員」と検討しながら、なるべく多くの学生が受講できるよう心掛けたい。

学生のボランティア活動

昨年度の登録者は278名、ボランティア活動参加者は65名であった（平成28年10月1日時点）。今年度の登録者数（245名）は昨年に比べ若干減少した。またボランティア活動参加者も48名と、減少傾向にある。ボランティアセンターには、専任の職員が常駐しているため、学生にとってボランティア活動へのアクセスが良い環境が整っていると思われる。本学周辺地域への影響が大きかった東日本大震災が起きてから時間が経過したことが、ボランティア活動の減少傾向の一因ではないかと考えている。

ボランティア活動への参加は、学生が社会経験を積む上で、また医療・福祉を学ぶ本学の学生がコミュニケーション能力を向上させる上で、とても良い機会になると思われるので、より多くの参加を促す努力をしていきたい。

参考文献

- 地域連携推進委員会 石黒友康 他：富士河口湖町との地域包括連携における大学の役割，健康科学大学
紀要 Vol.7, 35-49, 2011.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成23年
度）健康科学大学紀要 Vol.8, 129-138, 2012.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成24年
度）健康科学大学紀要 Vol.9, 105-112, 2013.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成25年
度）健康科学大学紀要 Vol.10, 119-126, 2014.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成26年
度）健康科学大学紀要 Vol.11, 183-190, 2015.
- 地域連携推進委員会 加藤智也 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成27年
度）健康科学大学紀要 Vol.12, 83-89, 2016.
- 地域連携推進委員会 加藤智也 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成28年
度）健康科学大学紀要 Vol.13, 97-104, 2017.

Abstract

The current study reviews the collaborative activities conducted between the Health Science University (the University) and the town of Fujikawaguchiko (the town) in 2017. It also evaluates the extent to which goals set by the “Agreement on Community Collaboration” were achieved. As per the “Co-ownership of Intellectual Property” listed in the agreement, three lectures aimed at the community members were organized by the University professors. The theme of this year’s lectures was on “A healthy lifestyle.” The first lecture was by a professor at the Kawaguchiko Camus, who is an expert in Chinese health techniques. The second lecture was in the new Tsuru Campus by the dean of the faculty of Nursing as an event in the University festival. The third was part of the town festival, “Community Festa,” by a University professor whose specialty is physical therapy. Meanwhile, governmental officers in the community organized lectures for the University students and introduced the work contents and problems. Eighty students completed the course this year. The University students became actively involved in local volunteer works, such as in a disaster drill operation in case Mt. Fuji erupts and as “Health Science University Walking-and-Cleaning Troops.”

Key words : community collaboration
agreement on community collaboration
volunteer center
co-ownership of intellectual